

## 佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

	評 価 日	30年 3 月 30 日
団 体 名	岩村田本町商店街振興組合	
事 業 名	「岩村田商店街が取り組む 新たな子どもの居場所づくり」事業	
対象経費	1,385,200 円	支 援 金 額 203,000 円

事業の目的・内容	目的
	<p>【背 景】</p> <p>当組合では、地域元気づくり支援金のお力を借りながら、平成18年から「子育て支援」に取り組んできた。佐久平駅周辺の住宅事情が変化し、県外や他地域からの人口流入が増加し、さらには核家族の世帯が増加の一途をたどっている。そこには、「居場所に困っている母子」がかなり存在するといわれている。小学校高学年になるまでの子どもの居場所があまり多くないという現状があり、「子どもの居場所づくり」について「岩村田商店街」として、様々な団体から、支援や協力要請が寄せられているため、本事業を実施した。</p> <p>【課 題】</p> <p>第一の課題 「未就園児」をかかえる、母子の居場所づくり 子どもを育てる環境を考えると、学校と家庭だけにその責務をゆだねる時代ではない。もうひとつの大きな力「地域」が大きくそれに関与していかなければならない状況に至っている。前述のように、当組合の直営の「子育て支援施設」でもその必要性が証明されている。また、他の団体事業の参加者からも同様の声が上がっている。</p> <p>第二の課題 「食の支援」を中心とした小学校低学年の子どもたちの居場所づくり 他の団体の活動からも分かるように 「食の支援」を中心にした、「子どもたちの居場所づくり」はニーズが高いことが証明されている。子育て支援を行ってきた、当組合独自の方法での支援を実施して、上記の課題を解消したいと考え、本事業を実施した。</p>

本事業の最終目標は「子どもの居場所作り」の完成 そこには将来的に、支援の必要な子どもを対象とした「食の支援」のできる場所、「学習支援のできる場所」、「子育て支援に必要な相談や託児機能」を兼ね備えた場所を設置することにある。それを、長期計画をたてて、推進していくこととした。 初年度（29年度）実施内容 1 「子どもの居場所作り」のためのイベントの実施した。 各回のコンテンツは以下のとおり。 ①こどもまちゼミ（午前10時～11時） 「こどもたちの居場所」になる、「きっかけづくり」として、こどもたち（親も同伴）に商店街のお店を探検してもらった。商店街の各店の協力を仰ぎ、「こどもまちゼミ」（各お店に行き、実際にいろんな指導を受けたり、説明、体験）を実施。 ②みんなで食事会（午前11時20分～13時30分） 参加者みんなで協力して プロの指導を受けながら「わいわい食事会を開催」（この食事会は、今後の「食事支援」の基礎となる「ママさん食堂」を運営するためのノウハウ作りを兼ねることになるので、運営にあたっては専門の指導者がついた。） ③わいわい相談会&勉強タイム（13時30分～15時） 保護者は子育ての悩みや、進路相談など、気軽にお茶しながら「ダベリングカフェ」こどもたちは、宿題持ってきて「勉強タイム」を実施。
--

事業の活動実績

第1回 「岩村田商店街を親子で探検しよう！」

実施日：平成29年10月22日（日）参加者：30名 大人11名 子ども19名  
こどもまちゼミ：ボクシングジム、ガトーショコラの店、なかむら呉服店、洋品店など  
わいわい食事会：長橋氏による食事会、簡単な素材で速く作れる「おいしいランチ」  
だべりんぐ：「ちよいる助産院」高橋智恵氏によるお母さんのお茶会  
テーマは「親子で育む性」  
日ごろ家庭で話題に上りづらい内容を子どもたちにどう理解させるか、などをダベリング会方式で学んで頂いた。

子どもたちは別のスペースで持ってきた材料で勉強会。

第2回 「岩村田おやこ商店会 “（しょうてんがい）”

実施日：平成29年11月12日（日）参加者 31名 大人10名 子ども21名  
こどもまちゼミ：今回は、和菓子屋さん、おもちゃ屋さん、シルバージュエリーの店、ネールのお店、南米カフェを訪問  
わいわい食事会：『時短野菜の簡単ピラフ』やはり、手ごろに、はやくおいしくできる食事を指導  
だべりんぐ： テーマ 高橋智恵氏による「親子で育む身体の健康」 体温や経皮毒についてわかりやすくお話をして頂く。保護者からは知っているようで知らない医療知識について学べてよかったとの声。

第3回 「岩村田おやこ商店会 “（しょうてんがい）”

実施日：平成30年1月14日（日）参加者 28名 大人 8名 子ども20名  
こどもまちゼミ： 当日は本町の「どんど焼き」の日でもあり、その様子をのぞいてから各店舗訪問。南米カフェやお米屋さん、和菓子屋さん、ネールのお店を訪問  
わいわい食事会：長橋氏急病のため弟子の山口氏、佐々木氏が長橋氏予定内容を代行。ミートソースの短時間クッキングを指導  
だべりんぐ：佐久総合医療センターの小児科医 坂本昌彦医師による「「教えてドクター 子どもの病気とおうちケア」について講演。家で注意すべき事柄を分かりやすく指導していただいた。

第4回 「岩村田おやこ商店会 “（しょうてんがい）”

実施日：平成30年2月18日（日）参加者 21名 大人 7名 子ども14名  
こどもまちゼミ：新しくできたパワーストーンのお店やpepperのいる塾、ネールのお店やおもちゃ屋さんなどを訪問  
わいわい食事会：「速いぞ、親子deドン！」という親子丼の絶品を指導。  
だべりんぐ：社会福祉士の新美亮介さんに「親のかかわりが変われば子どもが変わる」というテーマで講演。コミュニケーションの意外な取り方を学んだ。子どもたちは別室で学習会。

第5回 「岩村田おやこ商店会 “（しょうてんがい）”

実施日：平成30年3月18日（日）参加者 13名 大人 5名 子ども 8名  
こどもまちゼミ：当日は、このイベントのためにお米屋さんが「餅つき」を設定して頂き、子どもたちが体験。また、美容系のマルシェも開催そちらも訪問した。  
わいわい食事会：「チキンとミネストローネ」を指導。手間がかからず、安い材料でできる料理を学んだ。  
だべりんぐ：高橋助産師による「さわるってすごい 親子でマッサージ」スキンシップの大切さを指導していただいた。



こんなお店があったんだ！ ガトーショコラのお店で



こんなに速くお料理が出きるんだ！ 食事会で

別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	<p>参加者はやはり、「商店街」にあまり来たことのない家族が中心となった。若い世代にとって、まだまだ「商店街」という場所が、身近なものになっていないということが判明した。ただ、狙い通り、居場所を求める親子が多いのは事実であった。この事業に賛同するグループは構成できた。</p> <p>商店街の狙う効果としても、「商店街探検」という部分では成果あり。「こんな、お店にははじめて入ることができた」「楽しかった」など、「ぜひ来年度も企画してほしい」という、参加者側からの声は多かった。</p> <p>ただ、事業継続のための新たなグループ作りという点では、予想に反して「子育て世代」が中心となり、運営にまわることのできるグループを構成するには至らなかった。ただ、「佐久地域子ども応援会議」のメンバーには協力していただき運営することができた点では、これまでの商店街のイベントにはない、新しい運営方法を取ることができた。</p>
----------	--

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>○1 できた    2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ）</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>1 できた    ○2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ）</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>1 ほとんど同じ    ○2 多少の変更があった    3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ）</p> <p>当初、販促リーフレットを2000枚と計上しましたが、浅間地区、東地区の小学校には全部配布したいと考え、その費用を幟、POPを割愛することで、その費用に充てるほうが事業効果が上がると考え、実行させてもらいました。つきましては改めて、A43000枚×5回の見積を取って、実行しま</p>
	その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>岩村田地区では、現在、中心市街地活性化計画を佐久市、佐久商工会議所との連携の中で30年度策定を目指して進めている。その中でも、重要な子育て支援事業の一環として、「子どもの居場所づくり」は重要なテーマであり、1年1年、着実にその成果を積み上げていく必要がある。当初計画した3ヵ年計画の初年度として本事業を実施したが、成果を多面的に検証し、30年度の内容を再度吟味しながら、「子どもの居場所づくり」、商店街らしい、商店街に求められる居場所づくりを策定していきたい。</p>
---------	---